

東西文明の比較(27)

▼「隋・唐と日本」おさらい▲

陽光新聞社・顧問 塩澤宏宣

589年、中国では、後漢末期から4世紀あまり続いた分裂による動乱を収め、隋朝を築きました。この頃の日本では、聖徳太子が摂政についており、政治改革に取り組んでいました。

日本史で言えば飛鳥時代(592～710)です。そして、隣国の先進文化を直接取り入れるために、相次いで4回の遣隋使を派遣しました。600年、607年、608年、614年です。この遣隋使派遣は、隋と倭(日本)という2つの統一国家が正式な国交を開始したこととして大

きな意味を持ちました。

614年、唐が隋を滅ぼして、長安に都を置きました。唐の経済・文化は、空前の繁栄を見せ、東アジア最強の帝国になりました。倭では、過去4回に及ぶ遣隋使を通じて中国文化に傾倒して、中国文化の「模倣」の潮流が生まれました。623年に隋への留学僧の恵齊、恵日等が長い留学から帰国し、天皇に「唐が法律制度が最も整った国」であることを報告しました。

その報告を受け、舒明天皇は、630年に第1回の遣唐使派遣をします。630～895年の260余年の間、飛鳥・奈良・平安の3時代にわたる「東西文明の交流」が始まったのです。「遣唐使」という呼び名は、当初は「西海使」、「入唐使」「聘唐使」などと呼ばれていました。それが「遣唐使」となるには理由がありました。当時、唐に使節を派遣した国は、新羅などの韓半島諸国以外に数多くありました。倭と唐は、それらと区別するために「遣唐使」としたのです。この名称は、現在でも日中間で定着しています。

19回続いた遣唐使派遣

遣唐使派遣は、記録的には19回です。しかし、色々な問題があって、実際に派遣できた遣唐使は、わずかに12回でした。理由は、任命後に何らかの理由で行かなかったのが3回、朝鮮半島の百済に阻まれたのが1回、唐朝からの使節を送り返す「送唐客使」が2回、そしてもう1回は、入唐して久しいのに帰れない人々を特別に迎えに行く「迎入唐使」でした。

目的が異なった3つの時期

200余年という長い年月では、「一定」という概念は当てはまりません。倭にも唐にも、国の内外では多くの変化がありました。そこで、この200余年を3つの時期に分けて考える事が定着しています。

初期：630～669年。目的は唐朝の制度を学ぶこと。使節団の規模は小さく、船は1～2艘。随員は100～200人程度。航路は朝鮮半島を沿うルート。

中期：702～752年。飛鳥末期から奈良時代中期。遣唐使の最盛期。任命し実現したのは4回。使節団の規模は大きく、使節団は毎回500人を超え、船も4艘だった。盛唐の文化を本格的に吸収し、多くの留学生や留学僧の滞在期間は長くなる。その効果は「奈良文化」に影響を与えた。航路の多くは南方諸島を通る南島ルート。

後期：759～874年。奈良時代後期から平安時代中期。衰退期である。9回任命されたが、実現したのはわずか6回。唐は安史の乱により国力が衰退し始めており、日本にも唐から学ぶものは無くなった、という雰囲気は充満した。

最優秀な人材を派遣

使節団は、大使、副使、判官、録事などの官僚の他に、医者、通訳、画家、楽師、職人などの各種随員がおり、それらに船乗りもいました。これら

の使臣は、古典や歴史に精通し、才能溢れ、漢学の教養が高い一流名人材が選ばれました。留学生や留学僧も留学前に国内で頭角を顕している人も居り、唐から帰国するとほとんどが名を成しました。

遣唐使の功績

その第一は、典礼制度を導入し、日本の社会制度を作り上げたことではないでしょうか。唐の律令を規範制度としたこと。更に、教育制度を導入して各種学校を開設し、漢学を教えて人材育成に貢献しました。暦法、礼節、風習までも学びました。

次には、日本の文化芸術のレベルアップです。遣唐使は、毎回大量の漢籍、仏典などを携えて帰国しました。日本人たちは、競ってそれらの書物を読み書きして実力を磨きました。白居易など、唐代の著名な詩人の詩集が日本全土に広がりました。カタカナを作り出したのも留学僧たちでした。

また遣唐使は、書道・絵画・彫刻・音楽・舞踊などの芸術を持ち帰りました。将棋・碁等の技芸、相撲や馬球(ポロ)等のスポーツも持ち帰りました。

都市の建設

奈良は、日本仏教の中心であり、文化の発祥地です。平城京は、710年に帰国した遣唐使が、唐の都・長安を真似て平城京として建設しました。その規模は、長安の4分の1です。

日本仏教華嚴宗の総本山である東大寺は、745年創建されました。聖武天皇が、中国の寺院建築を模倣して建立しました。その大仏殿の西にある戒壇院は、唐から来日した鑑真によって建てられました。また正倉院は、当時の天皇の用品、東大寺の寺宝、奈良時代の美術品、中国・ペルシャ・西域などから運ばれた品々 9000点余が納められています。これらの多くは、遣唐使によって

持ち帰られたものです。

■ 代表的な仏教建築

- 唐招提寺金堂
- 唐招提寺経蔵
- 薬師寺東塔
- 東大寺法華堂(三月堂)、転害門
- 正倉院宝庫
- 法隆寺東院夢殿

遣唐使の廃止

遣唐使は、895年に廃止になりました。その原因は、唐朝の政局が不安定になったことでもあります。すでに200余年間、唐の文化を吸収し尽くして、日本の改革が完成したこともあるでしょう。一方では、唐から日本へ貿易に訪れる人々が増え続け、これまで遣唐使に頼っていた唐の物産も、彼らが担ってくれるようになったことも廃止の大きな要因でしょう。

交流を「絶つ」ことで生まれた日本文化

私がここで注目するところは、持ち帰った唐の制度や学問・芸術などを「日本の国情」に合わせて日本独自のものにしたことです。先進国のいいところは学ぶが、それらをそっくり取り入れるのではなく、日本にふさわしく「改善」する努力をしたことです。

「奈良」と「京都」の違いを現代でも感じられます。奈良には、「異国(中国)の香り」が残っているようです。一方で、京都にはそれらが無く、日本独特の「香り」があります。このことは、私の友人である中央電視台(CCTV)のディレクターも指摘していました。

その理由として、私の考えがありますが、それは次回に述べたいと思います。